

「初めての一人暮らし」

大阪府 柏原 章司 様

私が初めて一人暮らしをしたのは四十代半ばで広島県に単身赴任をした時だった。学生時代も、就職した時も実家から通い、結婚すると新しい家族ができ常に誰かと暮らしていた。恥ずかしい話、単身生活はとても寂しく何も出来ない自分が情けなく、落ち込む毎日だった。食事はほとんど外食で散らかっている部屋、気持ちも落ち着かずやる気も失せて会社も辞めたくなっていた。

ところが会社帰りのある夜、スーパーマーケットの前を通った時、今日は外食をやめて家で何か食べようと思い、簡単に食べられるものはないかと探した。カゴにはカット野菜や冷奴など入れたがもう一品私の目に留まり、それは今まで見た事も食べたこともない花形になったソーセージだった。家に帰り野菜や豆腐を並べ、料理ができない私はただソーセージを全部薄く切って大皿に並べた。するとテーブルの上に桜が満開に咲いたように華やかになり気持ちも明るくなった。

その皿の花ソーセージを見ていると家族の顔が思い浮かび、いつも家内と何気なく話していたことが自分を励ましてくれていたこと、子供の笑顔に癒されて毎日頑張っていたことがわかったような気がした。

そしてその日を境に私の生活は一変した。花ソーセージを常時置いておくことで、毎朝朝食を作り、掃除洗濯も定期的に行い、夕飯は付き合いがない限り家で食べるようになった。人が変わるきっかけというのは些細なことなのだと改めて感じた。会社の女の子から「最近楽しそうですね」と言われ、花ソーセージの話をすると、「今まで知らなかったのですか」と言われ、花ソーセージが有名なこともわかった。

私は家族の元に帰る時は必ず土産に花ソーセージを買って帰ったが、花ソーセージを不思議な力があるのか、娘が家内と喧嘩をしている時も花ソーセージを出すと娘の機嫌が直りすぐに仲直りしていた。慌ただしくしている家内も花ソーセージを見ると手を止めて「お友達も喜ぶわ。ありがとう、また買ってきてね、多い目に。」と嬉しそうに催促する

のだった。娘が高校入試で合格した時も花ソーセージでテーブルをいっぱいにして「桜咲く祝い」をしたこともあった。

最初は嫌で寂しいと思った単身生活だったが花ソーセージのおかげで乗り越えられたのだと感謝している。そして転勤先が広島で良かったと、今も懐かしく思い出される。